

JASMの資本割合はTSMCが86・5%、ソニーが6%、デンソーが5・5%、トヨタ自動車が2%となつており、第1工場では28nm & 16nmを、第2工場では7nm & 40nmを、それぞれ製造する。その第1工場の実態が少しづつ明らかになつてきた。以下でその詳細を説明する。

JASMの第1工場には現在約1000人の社員があり、その内訳はTSMC本社から派遣された台湾人約300人、ソニーから出向者（または転籍者？）が約200人、中途採用や大

の壁の一つである。  
まず台湾から派遣された  
約300人の技術者は28m  
& 16nmの技術の経験が  
あり、それを基に第1工場  
で28nm & 16nmの急速立  
ち上げを行おうとしてい  
る。そのため第1工場の主  
要なポジションは全て台湾  
人が占めることになり、そ  
の言語は当然、台湾語とい  
うことになる。

# TSMC熊本第1工場の実態 JASMは持続可能でない

世界最大のファウンドリ  
TSMCが2024年2月24日、熊本県菊陽町で建設していたJapan Advanced Semiconductor Manufacturingの開所式を開催した。

学新卒の社員が約500人となっている。つまり第1工場には約300人の台湾人と約700人の日本人が在籍している。ただ、この両者の間に大きな壁が存在している。それは言葉の壁と技術

して工場内の多くのやうどりは、英語ではなく台湾語になる。要するに台湾人と日本人の間には、大きな言葉の壁が存在する。

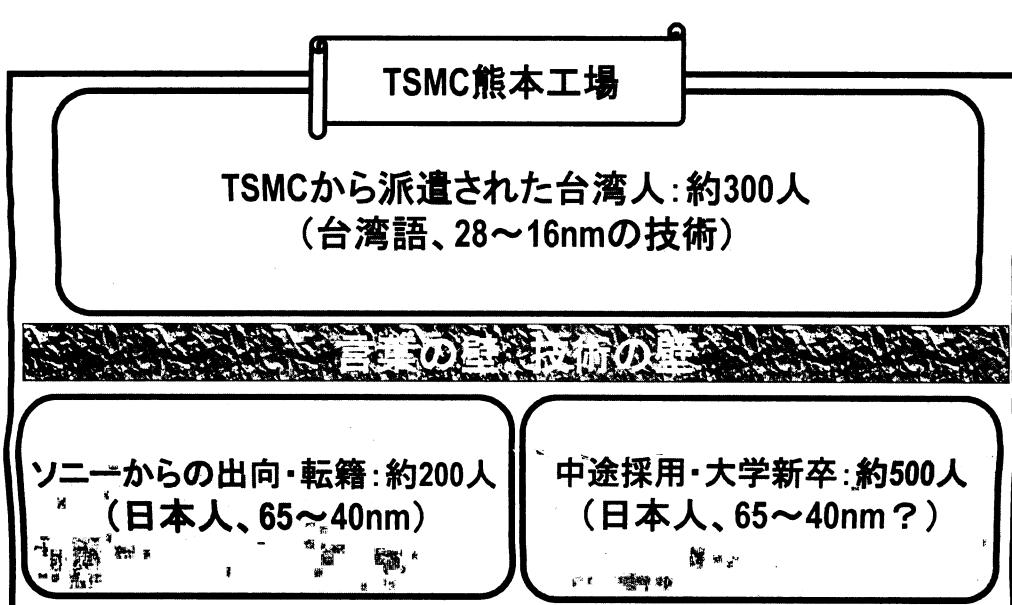
次に技術の壁であるが、28～16 nmを習得している台湾人に対して、ソニーをはじめとする日本人はせいぜい65～40 nmの技術しか分からぬ。中途採用者も事情は同じであり、大学新

一方、ソニーの技術者にとってみるとどういうことになるか？恐らく一流大学を卒業し、人気企業のソニーに就職し、10年ほどかけてエース技術者になつた者も多いはずだ。それが台湾人から「役立たずのポンコツ扱い」を受ける羽目になっている。

従つて、いくらJASDAQの給料が高いと言つても、

ソニー出向者をはじめとする700人の日本人は、日本語は通じないかもしれないが、英語で仕事ができると思ってJASMに来たはずである。しかしJASMの共通言語は、英語ではなく台湾語である。もしかしたら台湾人5人と日本人5人の打ち合わせは、英語になるかもしれない。しかし台湾人10人、日本人2人の会議は間違いなく台湾語になるだろう。卒者にいたっては半導体の技術は未経験ということになる。

このようなJASMの第1工場において、台湾人からソニーなどの日本人はどう見えるかというと「言葉も通じない、技術も何も知らない、役立たず」ということになる。従って、重要な技術開発の仕事をさせるわけにはいかず「夜勤で装置のお守りでもしていろ」ということになるらしい。



## TSMC熊本の第1工場の内情